

## 自己評価報告書

平成21年4月25日現在

研究種目： 基盤研究（C）  
 研究期間： 2006～2009  
 課題番号： 18611003  
 研究課題名（和文） 聴覚障害学生のリテラシーを高める教育プログラムの開発  
 研究課題名（英文） The Development of Educational Programs to Improve the Literacy of Hearing Impaired Students  
 研究代表者  
 細谷 美代子（HOSOYA MIYOKO）  
 筑波技術大学・障害者高等教育研究支援センター・教授  
 研究者番号：30282370

研究分野：表現教育、国語科教育  
 科研費の分科・細目：大学改革・評価  
 キーワード：聴覚障害学生、リテラシー、日本語力、大学教育の質

## 1. 研究計画の概要

研究の最終目標は、高等教育機関に学ぶ聴覚障害学生に対して、「文字・活字文化振興法」（平成17年度公布）の「身体的な条件その他の要因にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備する」という基本理念を具現化し、もって聴覚障害学生を対象とする大学教育の質を保証することである。

本研究課題はその基礎研究として、学生のリテラシーを高める「漢字・漢語力の育成」・「読書力の育成」を目指した教育プログラムの開発を目指す。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 2006-2008年度、毎年の新入生を対象に同一の読解力テスト、言語力テストを継続的に実施し、学生の基本的な言語力の実態に関する資料を収集し、分析した。

(2) 文字・活字文化に親しみリテラシー向上を目指した短期プログラムを3年間で7件実施した。各プログラムはその終了時に学生による評価を受けた。プログラムは主に1年生を対象としたもので、一部のプログラムでは2・3年生を対象とした。

①プログラムⅠ：2006年度の1年生を対象とする5週間のプログラムを2007年1月～2月に実施した。プログラム内容は新聞を読むこと、記事の要約、意見文作成などから成る。

②プログラムⅡ：2006年度にプログラムⅠ

を受けた2年生を対象とするプログラムⅡを2007年6月～7月にかけて5週間実施した。

③プログラムⅢ：2007年度の1年生を対象に6月～7月に実施した。内容はプログラムⅠに準じたもので期間は3週間である。

④プログラムⅣ：プログラムⅢを受けた1年生を対象に2007年12月から2008年1月にかけて、実質4週間実施した。

⑤プログラムⅤ：2008年度の1年生を対象とする新プログラムを6～7月に6週間実施した。このプログラムでは漢字・漢語力の育成を目標とした。

⑥プログラムⅥ：2・3年生を対象にした「日本語テスト大会」を2008年11月に3回実施した。

⑦プログラムⅦ：プログラムⅤを受けた1年生を対象とする6週間の新プログラムを2008年10～12月に実施した。このプログラムでは文意把握力と簡潔で効果的な意見文作成能力の伸張を目標とした。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

研究開始以来3年間、単年度ごとの研究計画はほぼ予定通り実施することができた。各年度の研究内容は研究の全体計画に沿ってそれぞれ適切に位置づけられたものであることから、本研究はおおむね順調に進展していると評価できる。

#### 4. 今後の研究の推進方策

2009年度は本研究課題の計画最終年度であるため、年度前半はこれまでに開発した教育プログラムの実践と改良を引き続き進めることとし、年度後半は研究成果に基づく発展的課題の可能性を探りつつ研究全体の総括に入る。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

- ① 細谷美代子、リテラシー向上を目的とする教育プログラム開発に関する中間報告－2006-2008年度の取り組みから－、筑波技術大学テクノレポート、16、編集中、2009、査読なし
- ② 細谷美代子、論理リテラシーを高める論文表現演習、月刊国語教育研究、431、48-53、2008、査読なし

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 細谷美代子、論文表現演習による論理リテラシーの育成－授業内指導と授業外支援－、第15回大学教育研究フォーラム、2009. 3. 21、京都大学吉田キャンパス
- ② 細谷美代子、高等教育における聴覚障害学生への表現教育、国文学 言語と文芸の会2007年度大会、2007. 12. 2、実践女子学園
- ③ HOSOYA Miyoko、The Development of Teaching materials to Facilitate the Advancement of Language Ability among Hearing Impaired Students、9th Asia-Pacific Congress on Deafness and 40th Annual Conference of the Japanese Deaf Education Association、2006. 10. 9、Tokyo